令和４年度八女市議会　市民アンケート調査結果報告書

八女市議会におきましては、平成２２年２月に施行した八女市議会基本条例に基づき、若者や女性をはじめ、市民の皆さまへの政治参加を促すとともに、市民に開かれた議会及び市民と協働のまちづくりを創出するために、市民アンケート調査を実施しました。

その結果について、以下のとおり報告いたします。

１　調査概要

（１）調査対象及び期間

ア 対　象：八女市にお住いの１８歳以上の方 2,500 人

イ 期　間：令和４年４月２９日～令和４年５月３１日

（２）調査項目

（設問）

A 現在お住いの地域（校区・地区）を教えてください。

B 性別を教えてください。

C 年齢を教えてください。

① 議会の活動に関心がありますか。

② 「議会だより」を年４回発行していますが、読まれていますか。

②-1「議会だより」について、ご意見・ご感想をお聞かせください。

③ 議会のホームページをご覧になったことはありますか。

④ 議会傍聴をされたことがありますか。

⑤ 「市民と議会の意見交換会」について教えてください。

⑥ 現在の市議会議員の中で要望を伝えることができる議員はいますか。

⑦ あなたの声を市政に反映させたい時はどのようにしますか。

⑧ 議員に何を期待しますか。

⑨ 議員が市民の代表として市政に市民の声を反映していると思われますか。

⑩ 現在、市議会議員一人当たりに月額１万円の政務活動費が支給されていますが、このことについてどのように思われますか。

⑪ 来年４月に市議会議員選挙が行われる予定ですが、あなたは投票に行きますか。

⑫ 「政治分野における男女共同参画推進法」が施行されて３年経ちますが、女性の政治進出は遅れていると言えます。女性議員が増えていくために、どのような施策が必要と思われますか。

⑬ 八女市議会は「市民に開かれた議会」であると思われますか。

⑬-1「市民に開かれた議会」にするためにはどのようにした方がよいと思われますか。

⑭ 市議会へのご意見、ご要望などがありましたらお聞かせください。

（３）調査方法及び回答数

ア 無作為抽出 2,500 人のうち紙媒体回答数 460 人（回収率 18.4%）一部未記入含む

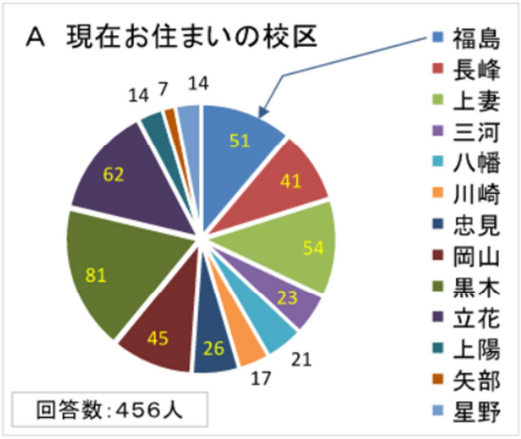
イ 議会だより（5/1）に二次元コードを掲載したＷｅｂアンケート（回答数 28 人）

2　調査結果の概要と分析

（1）基本項目（居住地区・性別・年齢）

アンケートに対する回答は、2,500 人に対し 460 人（回答率 18.4%）という低い回答結果となりました。また、同期間で実施したＷｅｂアンケートは 28 件でした。

地区別の状況を見ると、八幡地区 23.9%、川崎地区 22.7%、黒木地区 22.6%が比較的高く、また性別回答者数は女性の方が男性回答を 39 人上回っています。



（地区別回答数）

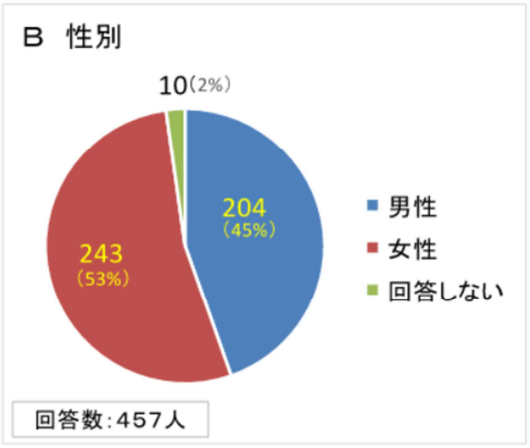
地区名	福島	長峰	上妻	三河	八幡	川崎	忠見	岡山	黒木	立花	上陽	矢部	星野	計
郵送数	262	263	278	137	88	75	144	358	358	330	99	38	70	2,500 人
回答数	51	41	54	23	21	17	26	45	81	62	14	7	14	456 人
回答率	19.5	15.6	19.4	16.8	23.9	22.7	18.1	12.6	22.6	18.8	14.1	18.4	20.0	18.2%

（※Web 回答者数は含まれていません。）

右下段、C 年齢の円グラフは、回答された 458 人の年齢別構成です。この傾向は設問 11 も同様ですが、年齢が低くなるにつれ政治意識も低くなることがうかがえます。

アンケートの回答件数が低かったことについて、配布時期が一つ上げられます。5 月の連休前に郵送されてきたアンケートを市民の皆さまがどのように感じられ、またどのように処理されたのか。さらに、議会だよりにＷｅｂアンケートへのご協力のお願いを掲載しましたが、残念ながら 1 カ月の回答期間で僅か 28 件という回答に終わり、議会への関心度とともに「議会だより」の認知度に課題が残る結果となりました。

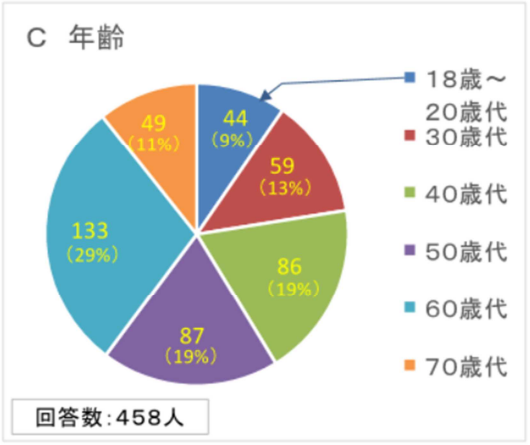
アンケート用紙に二次元コードを印字していなかったことも低回答率の要因で反省点と捉えています。



（年代別回答数）

年齢	郵送数	回答数	回答率
18 歳～20 歳代	563	44	7.8
30 歳代	450	59	13.1
40 歳代	483	86	17.8
50 歳代	430	87	20.2
60 歳代	404	133	32.9
70 歳代	170	49	28.8
計	2,500 人	458 人	18.3%

※アンケート郵送 2,500 人中の年代別回答率



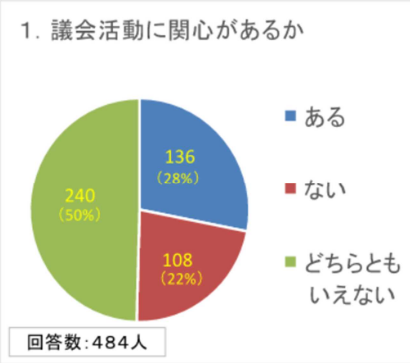
※回答者 458 人の年齢構成

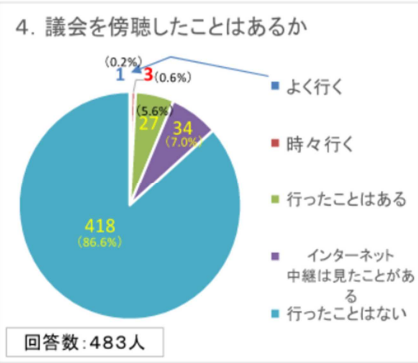
（２）議会活動への関心（設問１・４・５）

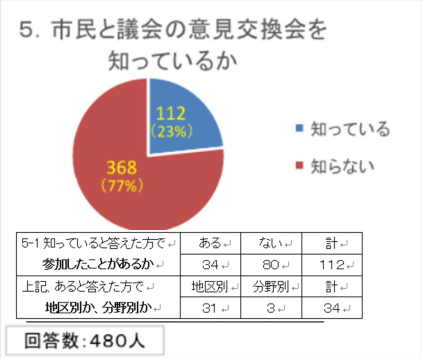
「議会活動に関心がある」と答えられた方は全体の 28%ありますが、「議会を傍聴されたことはあるか」の問いに「よく行く」「時々行く」「行ったことはある」「インターネット中継は見たことがある」の回答を合わせても全体の 13.4%になっています。

令和３年の傍聴者実績は年間 138 人で、インターネットアクセス数は生中継が 2,026 件、録画視聴（VOD）は 2,657 件となっています。

また、市民と議会の意見交換会の認知度は全体の 23%で、いずれも議会への関心度は低い結果となっています。議会への関心度を向上させるためには、日常的な情報発信が不可欠と考えています。



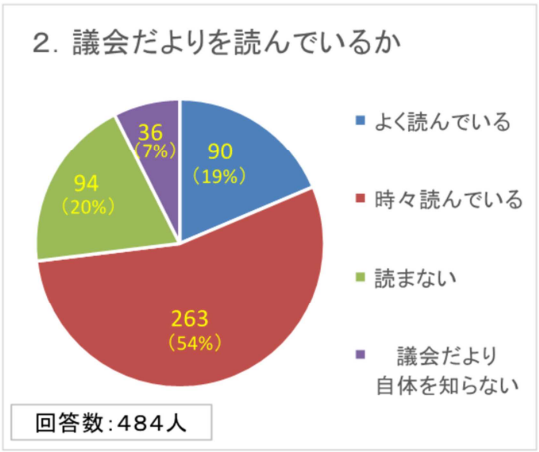


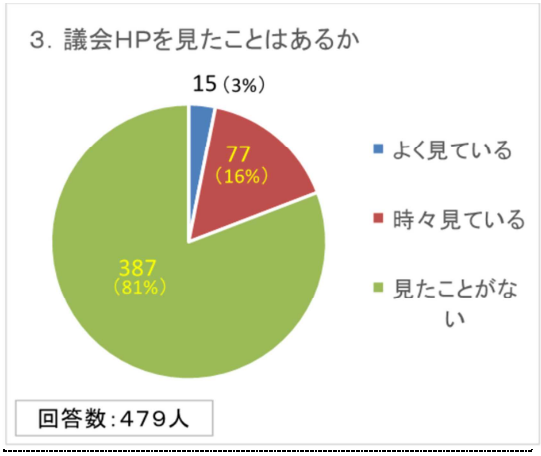


5-1 知っていると答えた方で参加したことがあるか	ある	ない	計
	34	80	112
上記、あると答えた方で地区別か、分野別か	地区別	分野別	計
	31	3	34

（３）市議会広報等（設問２・３）

「議会だよりを読んでいるか」の設問については、「よく読んでいる」「時々読んでいる」を合わせると７３%になっていますが、一方、「議会ホームページを見たことはあるか」になると、「よく見ている」「時々見ている」合わせても 19%になっています。また、上記の「よく見ている」「時々見ている」を年齢別で見ると、40 歳代で 31.4%と比較的高く、続いて 50 歳代で 20.7%となっています。





(年代別ホームページ閲覧回答数)

	年齢	よく見ている（人）	（%）	時々見ている（人）	（%）	見たことがない（人）	（%）	計（人）
1	18 歳～20 歳代	0	0.0	2	4.5	42	95.5	44
2	30 歳代	1	1.7	8	13.8	49	84.5	58
3	40 歳代	4	4.7	23	26.7	59	68.6	86
4	50 歳代	4	4.6	14	16.1	69	79.3	87
5	60 歳代	4	3.0	19	14.4	109	82.6	132
6	70 歳代	2	4.3	6	13.0	38	82.6	46
年齢未記入		0	0.0	5	19.2	21	80.8	26
	無回答							5
	計	15	3.1	77	16.1	387	80.8	479

令和３年における八女市議会ホームページへのアクセス数は、年間で延べ 52,242 件となっています。

ご意見・ご要望の中では、SNS 活用による情報開示が数多く記述されており、今後はインターネットを活用した広報活動の充実が課題と捉えています。

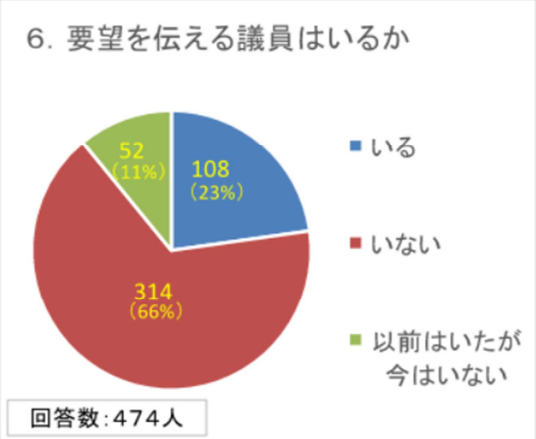
●主な意見・感想

・質問も大事だが結果の方が大事、成果が分かるように・・・。
・委員会等での審議内容が知りたい。
・議会だよりを通じて質問や意見を回答される制度を作ってほしい。
・事業の提案理由について執行部の説明を簡潔に明記してほしい。
・議員からの提案等に市長が「どう取り組んだのか」進捗状況や成果と課題等を記載してほしい。
・議事録的ではなく、一つの案件に対して進捗状況が分かるように紙面化してほしい。

（4）市政へ要望を伝えるためには（設問６・７）

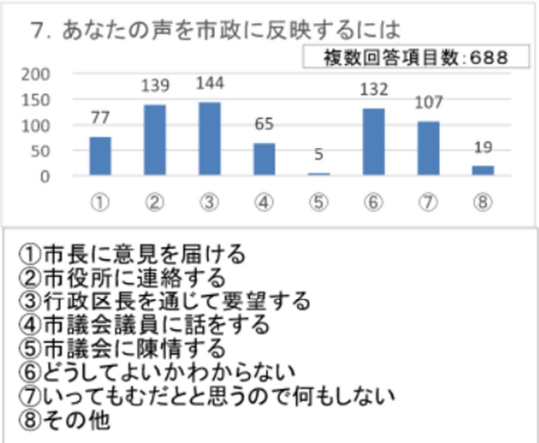
設問 6・7 は「市政へ要望を伝えるためには」という視点から集約しました。「要望を伝える議員がいる」の回答は全体の 108 人（23%）おられますが、次の設問 7 「市政に反映させるために実際議員に話をする」の回答は 65 人に留まっています。

「市役所に連絡する(139 人)」、「行政区長を通じて要望する(144 人)」は当然多くなっていますが、対応すべきなのは「どうしてよいか分からない(132 人)」、「いってもむだだと思うので何もしない(107 人)」の方々に、市役所（議会）を近づける取組が今後の課題と言えます。



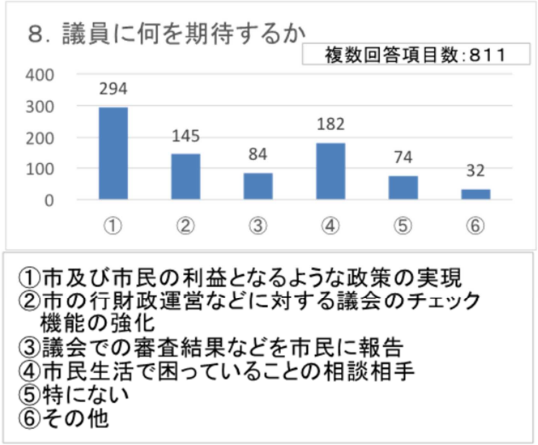
●主な意見・要望

・議員の連絡先を知らないから相談できない。
・どのようにして市議に要望を伝えられるか方法を教えて欲しい。
・ネットで要望するのはどうか。
・アンケートを通じて伝えたい。
・選挙に行く。

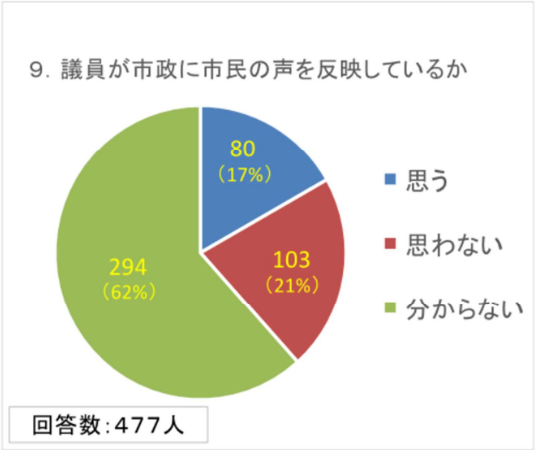


（5）議員への期待感と市政へ市民の声を反映しているか。（設問８・９）

複数回答を可としている 8 の設問では、811 件の回答があり、多い順から挙げると「市及び市民の利益となる政策の実現(294 人/36.3%)」、次に「市民生活で困っていることの相談(182 人/22.4%)」、「市の行財政運営などに対する議会のチェック機能の強化(145 人/17.9%)」となっています。



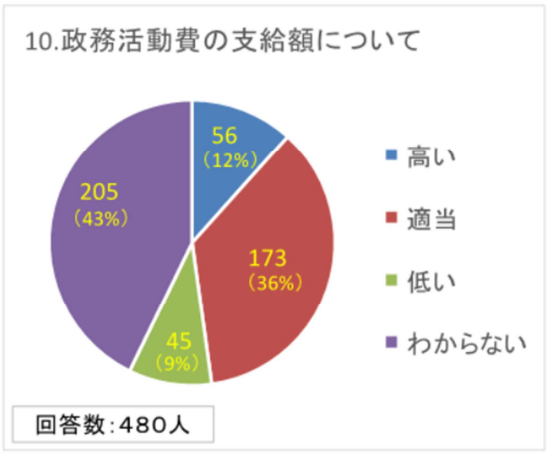
その反面、設問９の「議員が市政に市民の声を反映しているか」の回答には、「思う(17%)」、「思わない(21%)」に対し、「わからない(62%)」が大半となっており、議会活動において、市民の声が反映されているとは言えず、対策の必要性を感じています。



●主な意見・要望

・新しい事にチャレンジしてほしい。
・市民のアイディアを取り入れてほしい。
・ＳＮＳなどでの情報発信、普段の活動なども公開してほしい。
・市政への追及ではなく、議員自ら考え“提案”をしてほしい。
・首長に対するチェック機能を期待しているが、反対ありきや賛成ありきではなく、これまでのように是々非々の方針を堅持してほしい。
・「声なき市民」の声を効果的に吸い上げる仕組みづくりを・・・。

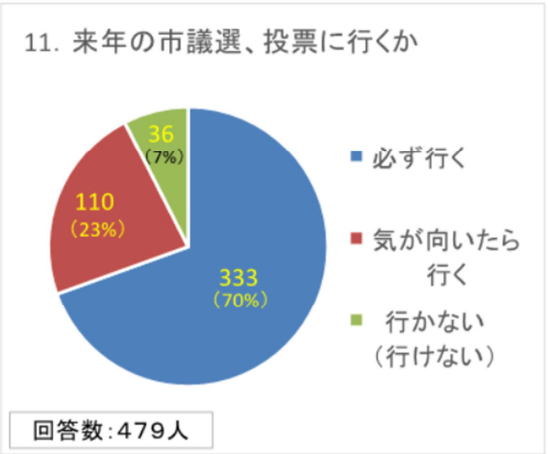
（６）政務活動費（設問１０）



政務活動費の使途を示して設問しましたが、43％の方が「分からない」と回答され、「適当(36%)」、「高い(12%)」、「低い(9%)」となりました。

全国市議会議長会の統計資料によると、令和２年度における市議会議員の政務活動費の月額平均は、人口５万～10万人未満の都市で「１万円未満(5.3%)」、「１万円以上２万円未満(49.6%)」、「２万円以上３万円未満(29.6%)」となっており、この様に全国市議会の参考数値を示していれば「わからない」という回答は減少していたと思われます。また、活動後の報告をホームページで公開していますが、意見・要望の概要を読み取ると、ほとんど見られていないことが伺えます。八女市に生かせるような特徴的な取組については、市議会だよりに掲載し報告することも検討課題といたします。

（７）来年施行の市議会議員選挙（設問１１）



「投票に必ず行く」と回答された方は70%と高い数値ですが、この回答者の年代別内訳を見ると、「70歳代(91.7%)」は非常に高く、「18歳～20歳代(31.8%)」は低くなっています。年齢が低下するにつれて投票率が低下するのは、近年の政治意識の傾向であり、このアンケートの回収率同様の結果となっています。

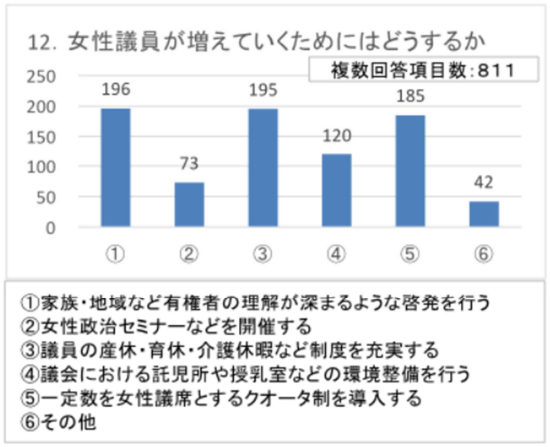
（年代別投票行動回答数）

年齢	必ず行く		気が向いたら行く		行かない（行けない）		計
	（人）	（%）	（人）	（%）	（人）	（%）	（人）
18 歳～20 歳代	14	31.8	21	47.7	9	20.5	44
30 歳代	28	48.3	22	37.9	8	13.8	58
40 歳代	56	65.9	20	23.5	9	10.6	85
50 歳代	59	67.8	21	24.1	7	8.0	87
60 歳代	111	84.7	18	13.7	2	1.5	131
70 歳代	44	91.7	3	6.3	1	2.1	48
未記入	21		5		0		26
計	333		110		36		479

合併後の近年の投票率は、平成 23 年度 68.55%、平成 27 年 62.53%、平成 31 年 59.39%と逓減しており、若年層の政治意識を高め、投票率を上げるための対策を検討する必要があると考えています。

（８）政治分野における男女共同参画の推進（設問１２）

複数回答としているこの項目でも 811 件の回答がありました。特徴的なのは、性別欄のその他・未記入 72 件を除き、男性が 330 件に対し、女性の回答が 409 件あり、女性の政治参加における前向きな姿勢が伺えます。その中で、女性のみの回答をみると、「休暇制度の充実(101 人)」、「託児所・授乳室等の環境整備(62 人)」、「セミナー開催(42 人)」が比較的高くなっています。



全体的には①啓発 196 人、③休暇制度の充実 195 人、⑤クオータ制導入 185 人を選択した方が多くなっています。

（男女別回答数）

	啓発	セミナー	休暇制度	環境整備	クオータ制	その他	計（件）
男	82	26	70	45	85	22	330
女	98	42	101	62	87	19	409
無回答	6	0	6	3	2	0	17
記入なし	10	5	18	10	11	1	55
計	196	73	195	120	185	42	811

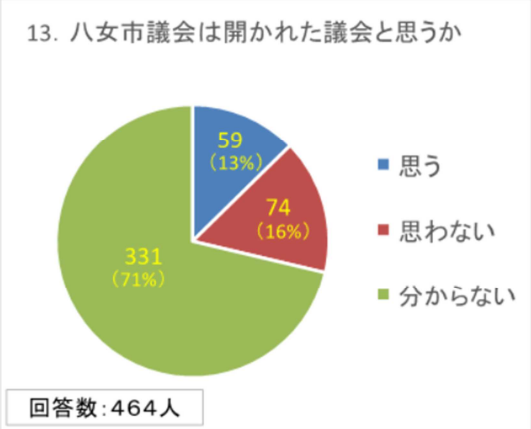
女性議員を増やすことについては、日本の大きな課題でありますが、民主主義の基礎である多様性を確保するためにも、女性の政治参加を拡大していくことは大変重要であると捉えています。

※（説明）クオータ制というのは、女性議員の割合が一定数になるようにする制度のことです。
世界では年々導入が進んでいますが、日本ではまだ導入されていません。

●主な意見・要望
・世の中、男女比はほぼ半分。議会を構成する議員の男女比も 1:1 が理想である。
・これまでの取組が功を奏さないならば、強制的に男性枠・女性枠を設けるしかない。このまま前例踏襲を続けても男性議員ばかりが誕生するだけ。
・北欧など女性議員の多い先進国の取組を学び具体的に生かしていく。
・男性が育休、介護休暇を取得するようになれば女性も政治を考える余裕ができるのでは・・・。
・女性自身の意識を高めるのが先決かもしれない。
・まずは地域の役職者（区長・総代）などに女性が就くことが重要ではないか。
・しっかり考えてくれる方なら男性、女性どちらでも構わず、実力ある方が出れば良い。
・男性女性問わず、八女市の未来を考え良い方向に導く議員になっていただきたい。
・クオータ制について、世界と合わせる必要があるのか。
・クオータ制導入により、優秀な候補者が性別を理由に落選する可能性が考えられる。立候補者の性別に関係ない投票結果が尊重されるべき。
・女性議員の人数をなぜ増やさなければいけないのかを議会で議論すれば視野が広がり、男か女かではなく、八女市の議員として活動されることを願う。

（９）市民に開かれた議会（設問１３）

「市民に開かれた議会」について、イメージがつかめないことから、「わからない（71%）」と回答した方が多かったと思われます。反面、「思う、思わない」と回答された方は、「閉ざされていない」という逆論のイメージをもって、自由記述蘭に対策面の意見や要望を数多く記載していただきました。



●主な意見・要望
・市民から寄せられたテーマを議題に、地域の公民館などで対話や交流の場をつくる。
・若者が意見を言える環境を整える。
・八女市が行っている「 LINE 」での情報発信は非常に効果的である。
・生活上困った事や解決して欲しいことなどの要望が議会に届いてないので、取り上げてもらう制度を。市長への手紙等のように議会への手紙を実施したらどうか。
・若い人が参画しやすいように LINE やインスタを使って情報発信をしてみては。
・防災ラジオから流す。
・土日や休日に議会を開いてみる。
・子ども議会を定期的につくり意見を反映させる。

（１０）その他の意見・要望

・過疎化、老人の一人暮らし、救急車が入らない道の拡張等、生活のにおいがする論議を。

・議員が理想的な八女市をどう考えるのかが重要であり、ぜひ実現してもらいたい。
・学生議会を作っていただきたい。
・私は普通に生活しているけど市議会の活動を知らない。「何をしているか」をもっと発信してほしい。
・政務活動費の質問は１万円が高いか低いかの見当がつかない。内訳の平均を明記して質問してほしい。
・判断材料が少なすぎて回答ができない。もっと情報を提示してから質問をしてほしい。
・「市民に開かれた議会」とあるが、具体的にどういう議会であってほしいかを示した方が意見が出やすいのではないか。
・年４回の定例会ではなく、通年議会にして夜や土日もやれば、サラリーマンも本職を続けながら議員になれる。
・一般質問を含め、活発な議案審議等を通じ、議会と執行部で積極的な議論が行われ、議会活動がより一層充実、発展することを願う。

３　まとめ

八女市議会の活動が、まだまだ不十分であることが今回のアンケート調査で明らかになりました。特に若い世代や女性の皆さんにその傾向が強いことが示されています。

議会への関心度の向上を図ることと、議員への期待感とは連動しており、事務的な報告よりも、政策提言、意見聴取や相談など、市民との関わりを強めるとともに市民の声が届きやすい場所、機会を創出することが重要なことと改めて気づかされました。

議会及び議員と市民の皆さんとの距離が縮まり、かつ開かれた議会であり、市民の負託に応えられるよう、その対応策について今後も引き続き検討を重ねてまいります。

※直接記述の意見・要望等については、多数の皆さまから記載していただきましたが、一部割愛して掲載いたしました。悪しからずご了承ください。

※インターネット関連用語の説明

(1)Web

正式名称は「ワールド・ワイド・ウェブ」ですが、略してＷｅｂ（ウェブ）と読んでいます。インターネット上の様々な情報を関連付け結びつけるシステムを意味します。

(2)二次元コード

QRコードとも呼び、カメラ付き携帯電話等で読み取ることができるバーコードです。読み取ることで、ホームページなどに簡単に接続できます。

(3)SNS

ＳＮＳ（エス・エヌ・エス）とは、「ソーシャル・ネットワーキング・サービス」の略称のことを言います。ＷＥＢ上で社会的なネットワークを作り出せるサービスを意味してます。

(4)LINE(ライン)

LINEは、スマホやパソコン、タブレット等で利用できるアプリケーションです。無料でメッセージのやり取り、音声通話、ビデオ通話等ができ、幅広く多くのユーザーに使われています。

(5)インスタ

正式名称はインスタグラムです。「写真や動画の投稿」「他人の写真や動画を見る」ことをメインとするＳＮＳです。文章がメインのＳＮＳとは違ったアピールができるので、企業等が宣伝に利用することも少なくありません。